

第10回 ダニと疾患のインターフェースに関するセミナー
淡路夢舞台大会 2002

SADI ニュース

2003年6月15日 SADI 組織委員会

第10回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナーの議事録

Proceedings of 10th Seminar on Acari - Disease Interface in Yumebutai, Awaji, 2002

SADI ホームページ [<http://www9.plata.or.jp/sadi/>]

第10回集会（10周年記念 SADI 淡路夢舞台大会）は、以下の通り開催された。

1. 開催要領

ホスト：SADI 組織委員会

期 日：2002年8月30日（金）～9月1日（日）の2泊3日

会 場：兵庫県立淡路夢舞台国際会議場（レセプションホール B）

（〒656 - 2301 兵庫県津名郡東浦町夢舞台1番地 Tel 0799 - 74 - 1000）

宿 泊：ウェスティンホテル淡路

費 用：参加費 3,000円、懇親会費 7,000円（学生は割引）、疫学ツアー 1,000円

発 表：口演と討論および資料の展示

企 画：半日の疫学ツアー

2. プログラム

1日目 8月30日（金）

14:55 オリエンテーション（高田伸弘）

15:00 開会アドレス「SADI 10周年をむかえて」（馬原文彦）

15:20 特別講演 I 「節足動物媒介性疾患と私どもの仲間」 小林 譲 座長 柳原保
武

特別講演 II 「リケッチア症、新興再興の頃」 須藤恒久 座長 橘 宣祥

17:00 休憩、夕食

18:30 科研合同班会議

研究代表者（高田伸弘・増澤俊幸・斉藤あつ子）：科研調査（2001～2002年）の進
捗状況

調査話題

角坂照貴：トルコ・ロシアでの調査ノウハウ

藤田博己：ユーラシアにまたがる紅斑熱群リケッチア

橋本直弥：アジア共通のヤマトマダニ

19:40 休憩

19:50 自由討論

楊 孝康：ライム病など地域医療に対する行政対応の在り方

2日目 8月31日(土)

8:30~12:00 疫学ツアー(東浦町郊外のツツガムシ病発生地→洲本市郊外のバベシア調査地

→輸鶴羽ダム付近の紅斑熱発生地でマ

ダニ採集)

13:15 一般口演

大橋典男：新興感染症「ヒトエーリキア症」病原体の最近の知見について

板垣朝夫：リケッチア感染が考えられる不明熱疾患群について

藤本和義：タカサゴキララマダニの生活史について

本田俊郎：トカラ列島(十島村)と奄美大島におけるダニ採捕調査について

楊 孝康：北海道のライム病の臨床病像(資料配布)

14:35 休憩、記念撮影

15:00 シンポジウム「環瀬戸内海のダニ起因性疾患」

1. バベシア症 座長(岸本寿男・岩崎博道)

矢野泰弘：六甲山地と淡路島のマダニーバベシアとの関連から一

斎藤あつ子：神戸・淡路島地域のバベシア症の疫学

2. 疥癬 座長(大滝倫子・馬場俊一)

山上 久：鳴門地方にみる疥癬の発生状況—自験例を中心に

柴田明子：東京の野生動物における疥癬について

16:10 休憩

16:20 シンポジウム

3. ツツガムシ病 座長(吉田芳哉・角坂照貴)

馬庭芳郎：兵庫県本土域でのツツガムシ病の発生状況

岡田長保：淡路島北部地域における恙虫病発生状況と疫学的特徴

4. 日本紅斑熱 座長(板垣朝夫・藤田博己)

千屋誠造：四国における紅斑熱発生の状況—高知県を中心に

児玉和也：日本紅斑熱の重症化要因について

17:40 総合討論

18:00 休憩

18:30 懇親会

3日目 9月1日(日)

9:00 一般口演

牛島陽子：回帰熱ボレリア *Borrelia duttonii* のトランスミッション実験

磯貝恵美子：スピロヘータ感染症と熱ショック蛋白

三谷春美：*Ixodes holocyclus* と *Ixodes uriae* のミトコンドリア遺伝子構成
解析と他節足動物との比較

塩田恒三：マダニによる人体刺咬 70 例

磯貝恵美子：アフリカーダニ物語（話題提供）

10:20 休憩

10:40 一般口演

増澤俊幸：トルコで始めて発見されたライム病ボレリアについて

板垣朝夫：島根県の紅斑熱患者発生その後

片山 丘：神奈川県における恙虫病の発生状況

岩崎博道：ツツガムシ症例を特徴づける血中サイトカインについて

11:50 総合討論，次年度大会の打合せ，解散

3. 登録参加者名簿（五十音順）

明石善之 （明石医院）
栗田哲司 （栗田医院）
石畝 史 （福井県衛環研）
磯貝恵美子 （北海道医療大）
板垣朝夫 （島根県衛研）
岩切大輔 （福山大・薬）
牛島陽子 （福山大・薬）
岩崎博道 （福井医大）
大瀬戸光明 （愛媛県衛環研）
大滝哲也 （東京都）
大滝倫子 （東京都）
大橋典男 （静岡県大）
岡田長保 （岡田医院）
小河正雄 （大分県衛環）
鴛渕るか （福山大・薬）
片山 丘 （神奈川県衛研）

角坂照貴	(愛知医大)
川口博史	(福山大・薬)
川原 眞	(名古屋市衛研)
岸本寿男	(国立感染研)
黒田勝哉	(聖隷淡路病院)
児玉和也	(兵庫県淡路病院)
児玉敬子	(洲本市訪問看護ステーション)
児玉千尋	(洲本市訪問看護ステーション)
小林 譲	(松山市)
斉藤あつ子	(神戸大・医)
柴田明子	(日獣畜大)
須藤恒久	(秋田市)
仙波尊教	(県立淡路病院)
高田伸弘	(福井医大)
宝田良平	(産経新聞社)
滝 幾子	(大阪府公衛研)
田淵紀彦	(福山大・薬)
橘 宣祥	(宮崎県看護大)
田原研司	(島根県保環研)
千屋誠造	(高知県衛研)
内藤博敬	(静岡県大・薬)
西海長平	(西海医院)
西山利正	(関西医大)
野村哲彦	(県立淡路病院)
橋本直哉	(静岡県大)
馬場吉平	(兵庫県豊岡保健福祉事務所)
馬場俊一	(日大・医)
馬場博章	(県立洲本健康福祉事務所)
濱田大輔	(兵庫県津名保健福祉事務所)
藤田博己	(大原研究所)
藤本和義	(埼玉医大)
福長嘗一郎	(福山大学)
福長将仁	(福山大・薬)
福長登茂子	(同夫人)
古屋由美子	(神奈川県衛研)
本田俊郎	(鹿児島県衛環)

馬 暁航 (折江大学・生命)
顧 琳 (同夫人)
増澤俊幸 (静岡県大・薬)
馬原文彦 (馬原医院)
馬原けいこ (同夫人)
馬庭芳郎 (大屋町診療所)
水田英生 (神戸検疫所)
三谷晴美 (福山大・薬)
宮国 毅 (那覇日赤)
宮国智恵子 (同夫人)
村上政世 (兵庫県津名保健福祉事務所)
矢野泰弘 (福井医大)
山本保男 (徳島県保環研)
山西重機 (香川県保研)
山上 久 (山上病院)
楊 孝康 (ひがし十勝病院)
吉田政弘 (大阪府公衛研)
吉田芳哉 (神奈川県衛研)

4. 次回開催の予告

ホスト：SADI 組織委員会

期 日：2004年9月13日(金)～9月15日(日)の予定

会 場：日本大学軽井沢研修所

(〒389-0102 長野県軽井沢町軽井沢 1052-1 Tel 0267-42-2401)

交 通：空路は各方面から羽田空港経由, JR は東京圏あるいは甲信越方面から長野新幹線・しなの鉄道, 車は各方面から上信越道・碓井軽井沢 IC または国道 18 号など.

案 内：従来の関係者や関連学会, 地元関係者へ, 2月初めに案内を配布, 8月頃に仮プログラムを発送.

編集や事務連絡などは下記まで

高田伸弘 (福井大学医学部←10月1日より改組)

〒910 - 1193 福井県吉田郡松岡町下合月 23-3

Tel 0776-61-8330 (直)

Fax 0776-25-0663 (直)

e-mail acaritakada@m7.dion.ne.jp

藤田博己 (大原研究所)

〒 960-0195 福島県福島市鎌田字中江 33 大原医療センター内

Tel 024-554-2001 (235)

Fax 024-554-2014 (代)

SADI 組織委員会

医ダニ学担当

高田伸弘、矢野康弘 (福井大学医学部)

藤田博己 (大原研究所)

臨床医学担当

馬原文彦 (馬原医院)

〒779-1510 徳島県阿南市新野町信里町 6-1

Tel. 0884-36-3339 Fax. 0884-36-3641

大滝倫子 (九段坂病院)

〒102-0074 千代田区九段坂南 2-1-39

Tel. 03-3262-9191 Fax.03-3264-5397

微生物学担当

岸本寿男 (国立感染症研究所)

〒162-8640 東京都新宿区戸山 1-23-1

Tel. 03-5285-1111 Fax. 03-5285-1208

吉田芳哉 (コージン・バイオ)

〒350-0214 板戸市千代田 5-1-3

Tel. 049-284-3781 Fax. 049-284-4784

編集後記

いよいよ記念すべき 10 回目 (10 周年記念会) を迎え、いたずらに派手でなくても節目の形はほしいものと考えてましたが、会場が淡路島の兵庫県立淡路夢舞台国際会議場の円形ホール、かつ宿が会場隣接のベッカム様で有名になりましたウエスティンホテルとしましたものですから、傍目にはずいぶん豪華な舞台となりました。しかし、これが私たち研究の傍ら知己となりました地元の先生方を含め、多くの関係者によります手造りが多く含まれる SADI 伝統の姿であった点は、参加者ご一同にも感じ取れるものであったかと存じますし、懇親会での絢爛たる阿波踊りの有名連による余興も、実際には馬原先生の個人的なつながりで来ていただけたものです。

もちろん、セミナーの内容も素晴らしいものでありました。小林 譲先生と須藤恒久先生からは本分野研究の草分けの頃の特別講演をいただき、時代は進んでも変わらない基本的な考え方やコツを改めて学びました。一般演題でも、地元の先生方からの話題はもとより、実に多彩な分野からの出題で息つく間ない討議が続きました。

バスに乗っての疫学ツアーでも、この淡路島は日本紅斑熱、ツツガムシ病、バベシア症など複数感染症の発生ないし由来が知られる土地ですから、実地の視察としては随分刺激的なひと時を過ごせました。季節的にはチマダ二類の幼若期に当たりましたから、山道で衣服にたかるものを懸命に振り払う光景ともなりました。

一方、メンバーの上から重複するところが多かったので3つの学振科研の合同班会議を、SADIの場をお借りして開催しました。これには中国折江大学から馬先生夫妻にも参加いただけることになり、福井で数日を過ごされた後で淡路島へご同行願いました。3班の合同ですし、班員以外のセミナー参加者も加わっていただきましたから、科研調査を進めていく上で今後に資するところ多かつたことは言うまでもありません。

そんなことで、これまでの10年間を顧みながら、今後の行くべき方向など討議できましたことは、ただただ意義深く、旧知のみならず初めて参加いただいた方々の胸にも深く刻み込まれたところ大であったと信ずる次第です。

終わりに、地元医師会や保健所、そして国際会議場の事務スタッフの皆様方から寄せられました懇切なご助力に対し、深甚の謝意を表して編集後記を閉じます。

文責（高田伸弘）